

# アートピアとっとり行動指針の最終評価（概要版）

- 「県内あらゆる場所でアートが花開く、創造性と活力に満ちた鳥取県（アートピアとっとり）」を目指すため、県の文化芸術の取組の方向性を示す「アートピアとっとり行動指針」（以下「行動指針」という。）を平成31年3月に策定。（計画期間は令和5年度末まで）※「地方の実情に即した文化芸術の推進に関する計画（地方文化芸術推進基本計画）」と位置づけている
- 行動指針には、「数値目標」について、「その達成に向けて関係者との連携協力を進めるとともに、『鳥取県文化芸術振興審議会』において、達成状況を点検・評価する」ことを定めている。令和5年度が最終年度となることから、数値目標及び施策の方向性に基づく取組状況について、鳥取県文化芸術振興審議会において評価・審議をいただいた。

## I. 基本的事項

### 1. 行動指針の目指す姿

県内のあらゆる場所でアートが花開く創造性と活力に満ちた鳥取県（アートピアとっとり）

※アートピア：アート（芸術）とユートピア（理想社会）を合わせた造語

### 2. 基本方針及び施策の方向性

	基本方針	施策の方向性
I	とっとりで「アート」に親しむ～環境づくり～	(1)だれもがアートに親しむことができる機会の充実と環境整備
		(2)アートの拠点である文化施設の充実と新たな拠点づくり
II	とっとりの「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～	(1)子どものアート鑑賞・体験機会の充実
		(2)アートを支える様々な人材の育成
III	とっとりの「アート」で元気に～地域づくり～	(1)アーティスト等と共に創る地域のアート活動の推進
		(2)地域の「宝」を活かした活力ある地域づくり
		(3)美術館整備に向けた体制づくり

### 3. 最終評価の方法

鳥取県文化芸術振興審議会において、次の2点について、評価・審議をいただいた。

#### (1) 数値目標の達成度評価について

行動指針策定時に設定した各数値目標について、策定時、中間評価時及び令和5年度調査の県政参画電子アンケート結果により、目標の達成度について評価・審議いただいた。

#### (2) 施策の方向性の取組評価について

行動指針の7つの施策の方向性について、各事業実施者の取組実績・評価及び県政参画電子アンケート結果を基礎資料とし令和3・4年度の取組状況、目標の達成状況及び指針の目標を達成するための今後の課題等について評価・審議いただいた。

## II. 数値目標の達成度評価

行動方針策定時と同内容の県政参画電子アンケートを実施した。

・実施対象 県政参画電子アンケート会員 748名

・回答 395名（回答率：52.8%）

### <数値結果の比較>

区分	項目	策定時 H30 (2018)	中間 R3 (2021)	最終 R5 (2023)	目標 R6 (2024)
1	「過去1年間に、文化芸術を直接鑑賞したことがある」とする割合	80.3%	61.1%	72.4%	85%
2	「過去1年間に、文化芸術に関わる活動をしたことがある」とする割合	38.0%	19.0%	29.1%	45%
3	「鳥取県の文化芸術活動について、鑑賞・参加したことがある」とする割合	46.4%	37.6%	39.0%	50%
4	「文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会など、鳥取県の文化的な環境に満足している」とする割合	35.9%	36.8%	※1 39.0%	40%
				※2 43.5%	
5	文化芸術に関するボランティア数（スポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動行動者率）	4.3% (2016)	3.3% (2021)	—	5%
				※3	

※1・2：設問を「文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会の満足」（※1）と「文化財・伝統的なまちなみの保存・整備への満足」（※2）に分割

※3：国の社会生活基本調査が5年ごとに実施のためデータなし

### <審議会による主な評価等>

コロナ禍ということもあり、数値では評価しづらいが、その中で実践的な取組がなされ全体的に目標値に近づいており、良い傾向にある。施策の基本的な部分は計画に沿って概ね目標を達成していると思われる。

コロナ禍により公演やイベント等が中止になり、目標設定時の水準を取り戻せていない現状がある。

## III. 施策の方向性の取組評価

### <審議会の評価>

施策の方向性	評価結果	主な評価理由
アートに親しむ機会の充実と環境整備	やや達成できている	コロナ禍の制限の中、催事が実施され減少はしたものの安定的な集客や映像配信など新たな鑑賞方法が導入された。誰もがアートに親しむという点ではアクセスできる環境や情報提供など一層の取組が必要である。
アートの拠点である文化施設の充実	概ね達成できている	全国的にも話題となる企画があり、県内外に発信した。県有文化施設は適切な管理運営がなされ県立美術館整備も順調である。
子どものアート鑑賞・体験機会の充実	やや達成できている	アウトリーチ、ワークショップなどをよく聞くようになり、コロナ禍でも子どもたちが鑑賞・体験する機会が確保されたが、子どものアート活動や鑑賞参加は、まだ伸びしろがあると思われる。
アートを支える人材の育成	やや達成できている	中間評価のアンケート結果より肯定的な評価が増え、若い世代への啓発に向けた新たな事業の実施など評価できるが、活動分野により差があり、一層の取組を要する。
地域のアート活動の推進	やや達成できている	バリアフリー美術館、手話パフォーマンスなど障がい者アート活動支援が充実した。地域外のアーティストを受け入れる地域の理解と取組が進んだが、より多くの人を巻き込む工夫が必要である。
地域の「宝」を活かした活力ある地域づくり	概ね達成できている	幅広い事業展開に取り組み県民への周知にも工夫が見られる。漫画や青谷弥生人など鳥取県ならではの文化財や文化資源を有効活用し効果的な発信や事業を展開した。
美術館整備に向けた体制づくり	概ね達成できている	開館に向けた活発なPRや周辺施設との連携が進められている。「ブリコの箱」はいろいろな意味で美術館への関心につながった。

## IV 評価の総括

- ・コロナ禍の制限の中、文化活動の継続や文化レベルの維持に取り組まれたことやそのための対策や支援などを評価する。新たな支援や手法を発展させ、今後の事業展開に生かして欲しい。また、動画配信はあまねくいろいろな人へ文化芸術を届けるという点で、今後、更にアップデートし良いものにして欲しい。
- ・活動分野により達成度、満足度、取組の進捗状況に差があることから、数値的に低い点や弱い点を引き上げる取組が必要である。文化活動団体や地域の特性に応じた支援を要する。